

あがつま



『わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。』

(ヨハネによる福音書 15章5節)

♪ 賛美歌を歌おう ⑩

『小さいひつじが』

(こどもさんびか改訂版 55番)

讃美歌 21-2000番)

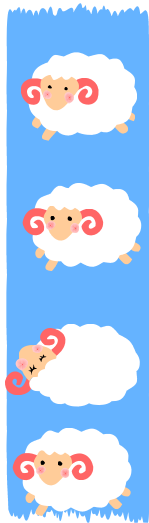
まるで子どもに絵本を読み聞かせるかのように、「迷い出た羊」のたとえ (マタイ 18:12~14・ルカ 17:37) を物語調に歌う賛美歌です。作詞者のアルバート・ミッドレーン (1825-1909) は、イギリス南部のワイト島に生まれ、金物商として生計を立てながら、日曜学校の教師として、八百を超える賛美歌を執筆しました。

この賛美歌は日本では、『日曜学校讃美歌』の改訂増補版 (1928) に収録され、『日曜学校讃美歌』復刻版 (1950) では、唱歌「冬の星座」や、「遠き山に日は落ちて 象路」の作詞などで知られる堀内敬三 (1897-1983・富士

見町教会会員) によって、口語文の歌詞に手直しされ収録されました。

作曲者のサルバトーレ・フェレッティ (1817-74) は、イタリアのフィレンツェに生まれ、イギリスのロンドンで雑誌の編集者をしていました。後に故郷であるフィレンツェにプロテスタントの孤児院を設立しました。

この「小さいひつじが」は、そうした子どもたちと共に生きたキリスト者たちによって作られました。この優しさに溢れた賛美歌は、これからも次の世代へと歌い繋がれていくことでしょう。



稲垣真実)